3．学び楽しむまちづくり

－教育・文化・スポーツ－

（1）家庭教育や幼児教育の充実

10 年後のビジョン

子どもが家庭や地域において、豊かな情操や協調性、思いやりなどが培われ、心身ともに健やかに育つまちをめざします。

現状と課題

◯少子化や家族の小規模化などによる家族形態の変化は、家族とのかかわりのなかで行われてきた基本ルールの獲得や社会性の育みなどに少なからず影響を与えていることが考えられます。

◯こうした社会状況のもと、子育て機能が学校教育に依存しすぎる傾向が強まってきたなかで、いじめや少年非行が社会問題化してきたことから、今日、改めて学校・家庭・地域社会がそれぞれの教育機能をバランスよく発揮し合い、子育てを地域社会総がかりで行うことの重要性が高まってきています。

◯子どもの育ちを最大限にしていくためには、就学前の幼児教育は極めて重要であり、就学前の営みのなかで形成された力を就学後においても発揮できるようにしていくためには、保育所・幼稚園と小学校や、小学校と中学校の接続を滑らかにする取り組みが、幼児・児童・生徒の育ちをより確かなものにすることにつながります。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
乳幼児への保育・教育が充実していると思う人の割合＊（「どちらかといえば」を含む）	%	44.4	47.3	56.0

＊市民意識調査による

施策の方向

①　家庭や地域の教育力の向上

〇親の育ちを支援する学習機会の充実と、親と子の深いつながりを育む、家庭の教育力の向上に努めます。

〇地域社会総がかりで子どもを育み、地域社会の絆を深める活動を進めます。

②　幼児教育の充実

〇幼児が健やかに成長し心身の発達が促されるよう、家庭や地域での生活と幼稚園での生活が相互に循環するような密接な関連を持ちつつ、生活の自然な流れを大切にするなかで、必要なさまざまな体験が豊富に得られるような環境を構成します。

〇保育所においても、子どもの生命の保持と情緒の安定を図るなかで、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための取り組みを推進します。そのためには、保育計画の作成とそれに基づく実践を行い、その内容について保護者や地域住民の意見を聞くなどして、自ら評価を行い、公表するように努めるとともに、課題や共通理解を深め、研修や自己研鑽によって、資質の向上、専門性の向上を図ります。

③　保育所、幼稚園、小・中学校の連携の推進

〇子どもの生活、発達や学びの連続性を大切にするため、保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携強化を図り、府の行う「もうすぐ 1 年生体験入学推進事業」や市独自の中学校ブロックごとの教育研究事業を通じて、連携強化を進めます。

市民に期待する取り組み

〇家庭や地域、学校・園が、学校区ごとにめざす子ども像を共有し、その実現に向けて話し合いを重ねましょう。

具体化する部門別計画

〇南丹市子ども・子育て支援事業計画（2015～2019 年度）
〇南丹市教育大綱（2018～2022 年度）
〇南丹市教育振興基本計画（2018～2022 年度）

（2）学校教育の充実

10 年後のビジョン

学校教育の充実を通して、「ふるさと南丹市」を愛する心を持ち、未来に向かってたくましく生きる力と生涯にわたって学び続ける意欲を持った子どもが育つまちをめざします。

現状と課題

○南丹市では、幼児・児童・生徒一人ひとりに、生涯にわたって学び続けることができる基礎基本の習得を図りながら、「ふるさと南丹市」を愛する心を育み、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成を通して、未来に向かってたくましく生きる力の育成に努めています。

○全国的にいじめの問題が社会問題化するなかで、南丹市においては、「南丹市いじめ防止基本方針」および「学校いじめ防止基本方針」を定め、いじめの防止、いじめの早期発見およびいじめへの対処などに関する措置を実効的に行うため、教師力の向上と地域社会と連携した教育の推進によっていじめを許さない学校風土の醸成に努めています。さらに同和教育を人権教育の重要な柱として位置づけ、地域社会総がかりで人権尊重の心を育む教育を充実し、豊かな心を持った幼児・児童・生徒一人ひとりの人格形成につなげていくことが重要です。

○充実した学校教育を進めるうえで、安全・安心な学習環境の整備は重要な課題です。さまざまな災害から子どもの命を守るという防災の観点から、学校施設の耐震化に続いて、老朽化した施設・設備の改修、健康面に配慮した快適な環境の整備、あわせて今日的な情報化に対応した情報関係設備の整備や環境教育の視点を持った質の高い教育環境を整備することが必要です。

市立小・中学校における児童・生徒数の推移

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
小学校の児童数（人）	1,529	1,497	1,449	1,435	1,449
中学校の生徒数（人）	847	778	773	742	698

資料：学校基本調査（各年 5 月 1 日現在）

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
コミュニティ・スクールの指定状況（小・中）	%	33	58	100
小・中学校施設老朽化対策	%	70	100	100
小・中学校特別教室等空調設備整備率	%	50	70	100
小・中学校 ICT 環境整備率	%	90	100	100

施策の方向

①　教育内容の充実

○思いやりやいたわりの心など、豊かな人間性を育むため、発達段階に応じた系統的な人権教育と、身近な地域教材を生かした道徳教育の充実を図ります。

○これからのグローバル社会を生き抜く子どもたちが、自らの進路を主体的に切り拓き、自信を持って自己実現を図ることができるよう、発達段階に応じたキャリア教育や、コミュニケーション能力の育成を推進します。

○生きる力としての学力を育むため、教員の指導力向上とともに、京都式少人数教育などを活用した基礎学力の充実に努め、子どもの知的好奇心をくすぐる体験活動の充実などにより、学習意欲の向上を図ります。

○「ことばの力」を高める取り組みを進めるため、読書環境を含む学校教育環境の整備や「ことば」に関する指導環境の充実に努めます。

○たくましく健やかなからだを育むため、楽しく取り組める遊びやスポーツ活動を通じて、体力・運動能力の向上に努めます。

○いじめの問題や不登校対応にかかわる取り組みの充実を図ります。

○発達障がいを含む、障がいのある幼児・児童・生徒一人ひとりの自立と社会参加をめざし、特別支援教育の推進を図ります。

②　家庭、地域と連携・協力した「地域とともにある学校づくり」の推進

○「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」制度や「地域学校協働本部事業」の取り組みを通して、各地域に育つ子ども像を共有し、その実現に向け、家庭・地域・学校・行政などが連携・協力しながら子どもたちを育む学校教育の推進を図ります。

③　学習教育環境の整備・充実

○安全・安心な施設環境の構築をはじめとし、学校教育施設の老朽化・長寿命化対策など、地球温暖化対応や健康面に配慮した普通教室以外の空調設備の設置を進めます。

○学校の情報機器環境の充実や教材整備の推進を図ります。

○教員の子どもと向き合うための時間確保をはじめとした学校業務改善を通して、質の高い教育を支える環境づくりを推進します。

市民に期待する取り組み

○学校教育や子どもたちへの関心を高め、かかわりを持ちましょう。

具体化する部門別計画

○南丹市教育大綱（2018～2022 年度）

○南丹市教育振興基本計画（2018～2022 年度）

（3）生涯学習の推進

10 年後のビジョン

市民一人ひとりが、生涯を通じていつでもどこでも自由に学び続けることができ、その学習成果が地域のまちづくりに生かされるまちをめざします。

現状と課題

○市民一人ひとりが心豊かに充実した生活を送っていくためには、生涯にわたって、自ら学び、自己を高め、さらに学んだ成果を社会で生かす生涯学習社会が求められています。

○南丹市では、公民館、図書館（1 館 3 室）などの生涯学習施設を中心として、市民の自発的な学習の促進に努めています。また、生涯学習推進組織の育成や学習機会を提供するため、各種社会教育団体の育成・支援や、家庭教育支援事業、青少年活動事業、高齢者対象事業などを行っています。

○生涯学習社会の実現に向けて、地域の実態や伝統を大切にしながら、多様な学習機会や情報の提供、学習環境の総合的な整備・充実などに努め、地域・家庭・学校の連携・協力を強化し、地域社会総がかりで子どもを育むなど、地域社会の教育力の向上と、生涯にわたって学び、生かす生涯学習を支援する体制づくりが求められています。

○豊かな心と人間性を育み、より充実した生活を楽しめるよう、文化芸術の振興を図る必要があります。

市内社会教育施設での生涯学習講座数と受講者数の推移

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
生涯学習講座数（講座）	25	20	21	15	15
受講者数（人）	1,533	1,576	1,638	1,802	1,810

資料：社会教育課

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
公民館施設の利用者数（年間）	人	64,632	70,000	75,000
生涯学習講座の受講者数（年間）	人	1,810	1,900	2,000
図書館貸出利用者数(年間)	人	40,866	42,200	43,700
図書館貸出冊数（年間）	冊	122,341	126,600	131,100

施策の方向

①　生涯学習拠点施設の充実

〇公民館、図書館などの充実を図るとともに、多様な学習講座の開催など学習機会の提供を進め、市民の自発的な学習活動への参加を促進します。

〇地域の方々をボランティアとして、学校や地域の実情に応じて支援する地域学校協働本部事業の充実を図ります。

〇老朽化している生涯学習施設については、機能充実や計画的な改修を行い、全ての市民が安心して学習できる環境をつくります。

②　生涯学習推進組織の育成強化

〇地域社会の形成や学習機会の拡充のうえで重要な役割を担っている社会教育関係団体の自主的な学習活動を育成・支援するため、相談への適切な対応や情報提供などを進めます。

③　文化芸術の振興

〇文化芸術にふれる機会や自ら創造する楽しみを通じて、豊かな心や人間性を育み、日々の暮らしにうるおいが生まれるよう、文化芸術の振興を図ります。

市民に期待する取り組み

〇自分を高めるため、生涯にわたって学びの姿勢を持ちましょう。

〇学んだことを地域のまちづくりに生かしましょう。

具体化する部門別計画

〇南丹市教育大綱（2018～2022 年度）

〇南丹市教育振興基本計画（2018～2022 年度）

（４）伝統文化の継承

10 年後のビジョン

南丹市の歴史文化遺産が保存され、市民が地域の伝統文化を大切に守るまちをめざします。

現状と課題

○南丹市には、長い歴史のなかで培われてきた多様な文化があり、それらは建物や絵画、彫刻、そして地域の伝統的な祭礼などとして今日に伝えられています。こうした歴史文化遺産を市民共通の財産とするため、さまざまな調査を経て文化財として指定するなどの措置が講じられてきています。

○市内には多くの指定文化財があり、それらの保護に必要な支援を行ってきました。なかでも美山地域の国の重要伝統的建造物群保存地区のかやぶき民家群は、南丹市を代表するもので、多くの観光客が訪れています。文化財については、このように保存と活用をあわせて進める視点も、歴史文化の周知や観光振興のうえで大切といえます。

○近年、国は文化財を単に保護するだけでなく、事業資産や観光資源として生かしながら、ゆるやかに守ることを支援する登録文化財制度を進めており、南丹市でもこの制度を活用した取り組みが進められています。

○歴史を学ぶための取り組みとしては、文化博物館、郷土資料館などで文化財関係資料の展示・公開を行うとともに、児童・生徒、市民や来訪者へ歴史文化を学ぶ機会も提供しています。

○市内各地域には多くの伝統行事や伝統文化があり、長い歴史のなかで現代に引き継がれてきました。集落の少子高齢化、過疎化が進む現在、それらの保存・継承に取り組む必要があります。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
文化博物館と郷土資料館の入場者数（年間）	人	6,375	6,700	7,000
市指定文化財の指定数	件	87	92	97

施策の方向

①　歴史文化遺産の調査と保全

〇地域の歴史文化資料、伝統行事などの調査と収集を進めるとともに、国登録文化財制度の積極的な活用を図るなど、文化財の保護と活用を進めます。また、歴史文化遺産の保存・修理・修復などを図り、そのために必要な支援を進めます。

〇文化博物館、郷土資料館などでの展示や催事内容の充実を図ります。

②　歴史文化遺産の周知と活用

〇郷土の歴史文化遺産に対する市民の理解を深め、それらが共通の財産として愛護され、次代に引き継がれるよう、学校や文化博物館、郷土資料館などにおいて教育や啓発に努めます。また、そのために地域の歴史文化に詳しい市民の協力を得ます。

〇各地域固有の伝統行事や習慣などの民俗文化が引き継がれていくよう支援します。

〇歴史文化遺産を観光振興に積極的に活用します。そのため、パンフレットの作成、ホームページの充実、歴史文化遺産周辺の環境整備や案内機能の強化を図ります。

市民に期待する取り組み

〇市や身近な地域の歴史文化にふれ、知識を深めましょう。

〇市外の人たちをまちの歴史文化遺産に案内し、まちの歴史を知ってもらいましょう。

（5）生涯スポーツ環境の充実

10 年後のビジョン

市民一人ひとりがライフステージに応じ、生涯にわたってスポーツ活動を楽しみ、体力の向上や健康の維持・増進が図られるまちをめざします。

現状と課題

○生涯スポーツ活動は、心身ともに健やかな人間を育て、明るく豊かで活力に満ちた社会を形成するうえで、重要な役割を担っています。

○南丹市では、体育協会・スポーツ推進委員会を中心に競技団体や地域体育振興会、スポーツ少年団などによる活動があり、地域や各競技での生涯スポーツの取り組みも広がりつつあります。地域における生涯スポーツ活動としては、総合型地域スポーツクラブ※が設立され、誰もが気軽に参加できる活動が進められています。

○今後は、さらに市民が利用しやすい施設の充実を図るとともに、総合型地域スポーツクラブの充実や各種スポーツ活動の振興、指導者の育成など、「誰もが」「いつでも」「身近に」「生涯にわたって」スポーツを楽しめるまちづくりをめざす必要があります。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
市営スポーツ･レクリエーション施設の利用者数（年間）	人	191,282	195,000	200,000

※総合型地域スポーツクラブ：地域において、子どもから高齢者までさまざまなスポーツに参加することができ、住民によって運営される総合的なスポーツクラブ。

施策の方向

① スポーツ・レクリエーション施設の充実

○より活発なスポーツ・レクリエーション活動に対応できるよう、スポーツ施設・設備の整備・充実とその有効利用を進めます。

○利用者にとって、より使いやすい施設となるよう駐車場やトイレなどのきめ細かな改善を進めます。

② スポーツ・レクリエーション活動の振興と支援

○健康でいきいきとした暮らしにつながるよう、さまざまなスポーツ・レクリエーション活動への支援を図り、その振興と普及に努めます。

○ジュニアスポーツの振興や優れた選手の育成と強化を目的とした競技スポーツの推進を図ります。

○競技団体・学校・地域の連携を図り、誰もが気軽に参加できる総合型地域スポーツクラブの育成を進めます。

○スポーツ活動の発展のために、指導者の育成に努めます。

市民に期待する取り組み

○積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加しましょう。

○技能や経験を生かし、スポーツ活動の指導者として地域に貢献しましょう。

具体化する部門別計画

○南丹市教育大綱（2018～2022 年度）

○南丹市教育振興基本計画（2018～2022 年度）

○南丹市スポーツ推進計画（2018～2022 年度）

（6）青少年の健全育成

10 年後のビジョン

地域・家庭・学校の連携により、協調性や思いやりの心が身につき、青少年が地域で活躍しているまちをめざします。

現状と課題

◯社会環境の変化にともない、青少年を取り巻く環境も大きく変化しています。青少年一人ひとりの地域とのかかわりや世代間のふれあいが希薄になりつつあるため、地域ぐるみで青少年を育む環境づくりが求められています。

◯インターネット・携帯電話の普及や深夜営業施設の増加などにより、青少年の健全育成を阻害する有害環境対策の重要性も高まっています。家庭や学校、地域が一体となり、環境浄化に向けた取り組みが必要です。

◯南丹市では、青少年育成協会と連携して、夏休み期間中のパトロールやあいさつ運動などの啓発活動など、青少年の健全育成に向けた取り組みを実施しています。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
子ども会行事の参加人数（年間）	人	4,911	5,000	5,100

施策の方向

①　多様な青少年活動の充実

○青少年の学習活動やボランティア活動、地域活動への積極的な参加を促すとともに、各種講習会、研修会を開催し、地域で活躍するリーダーの育成を図ります。

②　青少年の健全育成の推進

○パトロールや啓発活動など、家庭や地域との連携・強化を図り、非行防止や環境浄化に努めるとともに、青少年の豊かな人間性を育むために、地域での見守り活動を推進します。

③　地域社会総がかりでの次代を担う青少年の育成

○地域・家庭・学校で地域に育つ子ども像を共有し、その実現に向けそれぞれが持つ役割を積極的に進め、協働して次代を担う青少年を育成します。

市民に期待する取り組み

○家庭では、豊かな心を育み、基本的生活習慣をしっかり身につけさせましょう。
○地域全体では、子どもたちに目を向け、コミュニケーションを積極的に図りましょう。
○青少年を取り巻く環境の浄化に努め、非行防止やいじめ根絶に向けた取り組みを進めましょう。

具体化する部門別計画

○南丹市子ども・子育て支援事業計画（2015～2019 年度）
○南丹市教育大綱（2018～2022 年度）
○南丹市教育振興基本計画（2018～2022 年度）

市民ワークショップから出た市民の主な意見・アイデア

まちづくりの基本方針「３．学び楽しむまちづくり」に関連した、市民ワークショップで市民から出された主な意見やアイデアを掲載します。

３．学び楽しむまちづくり【教育・文化・スポーツ】

基本施策	主な意見･アイデア
家庭教育や幼児教育の充実	○地域のいろんな大人たちと子どもがかかわれる機会をもっと増やす。 ○他人の子どもでも叱れるような地域づくりが大切である。
学校教育の充実	○多様な学びがあり、子どもたちの居場所にもなるフリースクールをつくってはどうか。 ○南丹市の小・中学校では農業を必須で教える。 ○コミュニティ・スクールの制度を活用し、地域の高齢者が子どもたちに昔の遊びや技などを教える。 ○南丹市の地域資源を生かしたカリキュラムをつくり、都会からも入学したくなるような学校づくりを行う。 ○園部地域などで小中高一貫教育を実施する。
生涯学習の推進	○大人の持っているスキルを子どもたちに教えられる場をつくる。 ○生活の知恵など、農業や子育てに関することなど若い世代に教えられる環境づくり。 ○地域で活動する団体が主催し、地域の人が先生になる講座を開催する。フィールドワークなども実施する。 ○優秀な人ややる気のある人などを発掘し、人材バンクのような仕組みをつくる。
伝統文化の継承	○虫送りなど、地域の伝統行事を復活させる。 ○地域の歴史講座など、伝統文化を伝える教室をつくる。 ○高校などとも連携し、地域学をつくっていく。 ○学校などで伝統文化を伝える教室を開催する。
生涯スポーツ環境の充実	○ランニングやウォーキングなど、健康面に配慮した趣味の輪を広げる。 ○地域の運動会はできるだけ継続してほしい。 ○スポーツを通じた地域振興が大切である。
青少年の健全育成	○地元の好きなところを 10 個言えるようになる。 ○高校生が小学生に勉強を教えるような、多世代交流スペースを設置する。